

「資産運用コンサルティングのポイント Vol.42～ ETF 運用と「NT 倍率」 日経平均株価と TOPIX の違い分かりますか？ -後篇->」



株式会社 ZUU の押田裕太です。今回は、日経平均株価と TOPIX の 2 つの指数について見てきました。今回はもう少し踏み込み、2 つの指数を活用して市場動向を読むうえで参考となる「NT 倍率」について見ていきたいと思います。

日経平均株価を TOPIX で割った「NT 倍率」という数値をご存じでしょうか。両指数は採用銘柄や計算方法が異なり、値動きにズレがあります。前回お伝えした通り、相場が動くタイミングでは日経平均株価が先行し、TOPIX が追随する傾向にありますが、NT 倍率はこのズレを可視化したものであり、株式市場の動向を読むうえで参考となるものです。

NT 倍率は、5 年ほど前には 10 倍台で推移していましたが、2012 年にアベノミクスが始まる頃に 12 倍に上昇しました。2013 年 12 月には終値ベースで 12.7 倍に達する場面も見られたものの結局長続きせず下落し、その後は 12.5 倍前後で頭打ちとなっています。

現在、日経平均株価に大きく影響する値がさ株は、ソフトバンク <9984>、ファーストリテイリング <9983>、ファナック <6954> の 3 銘柄です。日中に日経平均株価が値を飛ばして NT 倍率が上昇するときは、これらの値がさ 3 銘柄か日経 225 先物に短期筋の仕掛け的な売り買いが入ることが多いです。また、日経平均株価は値がさ株の個別材料で上下することもあります。たとえば、ファーストリテイリングが証券アナリストの予想を裏切る業績予想を示し、同社の株価が反応すると、日経平均株価も連動するといったケースがみられます。

■NT 倍率が 13 倍に近づくと日経平均株価は加熱気味？

NT 倍率は 2 つの指数を加工したものであり、明確に上昇や下落の限界値があるわけではなく、過去には 14 倍台で推移したこともあります。とはいえ、アベノミクスがスタートし、株式相場が堅調となるなかでも終値ベースで 13 倍にタッチしたことがないというのは示唆に富んでいます。13 倍に近づくと日経平均株価に過熱感が出ているサインと見なされ、先物や値がさ株 3 銘柄に利益確定の売りが出やすいからです。一方で NT 倍率が上昇すると、メガバンクや地方銀行といった金融株に出遅れ感が広がることもたびたびみられます。金融株にまとまった買いが入ると、TOPIX の上昇率は日経平均株価を上回り、NT 倍率は下落するのです。

こうした NT 倍率の傾向は、日本株の ETF 運用を考えるうえでも参考になるでしょう。

<著者プロフィール>

押田裕太

大和証券にて中小企業経営者をはじめとする富裕層向けに資産コンサルティングをおこなう。その後、株式会社 ZUU に入社。入社後は、現在配信先含めて月間 2000 万アクセスを超える投資家向け金融・経済メディア ZUU online の運営に携わる。金融担当として、日々アナリストなどの金融専門家への取材等を通じ、個人投資家に役立つ情報を提供。Yahoo!ファイナンス 投資の達人としても執筆をおこなっている。

参考

ZUU online : <http://zuuonline.com/>

ZUU Advisors-Support : <http://support.zuuadvisors.com/>参考 : ZUU Advisors-Support :

<http://support.zuuadvisors.com/>

: ZUU online : <http://zuuonline.com/>

◇今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP 実務研究会事務局では、FP 実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP 実務研究会事務局【(株)日税ビジネスサービス 企画開発部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488